

情報を公開するホームページのアドレス及び内容

情報を公開するホームページのアドレス		http://www.shoshi.ed.jp/highschool/
研修機関情報	法人情報 ☆	<ul style="list-style-type: none"> ● 法人格・法人名称・住所等 法人格： 学校法人 法人名：学校法人尚志学園 住所：福島県郡山市大槻町字坦ノ腰2番地 ● 代表者名、研修事業担当理事・取締役名 代表者名：望木昌彦 担当理事：倉又晴男 取締役名：倉又晴男
	研修機関情報 ☆	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業所名称・住所等 事業所名：尚志高等学校 住 所：福島県郡山市大槻町字坦ノ腰2番地 ● 理念 1. 明確な目的意識を持ち、常に努力する生徒。 2. 自ら学習し、確かな技術・知識を身に付ける生徒。 3. 自他を尊び、社会連帯のために貢献する生徒。 4. 自主独立の精神を持ち、健康で、豊かな品性を備えた生徒。 ● 学則：別紙 ● 研修施設、設備：福祉実習室
研修事業情報	研修の概要	<ul style="list-style-type: none"> ● 対象：普通科福祉系コース在籍生徒 ● 研修のスケジュール(期間、日程、時間数)※別紙 ● 定員(集合研修、実習)と指導者数 定員33名、指導者14名 ● 研修受講までの流れ(募集、申し込み) 2年次コース選択により、福祉系クラスを選択した生徒は、自動的に研修を受講する。 ● 費用：¥8,000円 ● 留意事項、特徴、受講者へのメッセージ等 福祉系では、「介護職員初任者研修」を中心に[高齢者福祉・障害者福祉・児童家庭福祉]を学んでいきます。また手話検定や保育技能検定にも挑戦していきましょう。
	課程責任者	● 課程編成責任者名 : 菊地美穂
	研修カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> ● 科目別シラバス：別紙 ● 科目別担当教官名 : 別紙 ● 科目別特徴：別紙 演習の場合は、実技内容・備品、指導体制：別紙
	修了評価	● 修了評価の方法、評価者、再履修等の基準：別紙

様式第9号(第3条関係)

	<p>実習施設 (実習を行う場合)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 協力実習機関の名称・住所等:別紙 ● 協力実習機関の介護保険事業の概要:別紙 ● 協力実習機関の実習担当者名 :別紙 ● 実習プログラム内容、プログラムの特色※別紙 ● 実習中の指導体制・内容(振り返り、実習指導等)※別紙 ● 協力実習機関における延べ人数:別紙
<p>講師情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 名前 ※別紙 ● 略歴、現職、資格 ※別紙 	
<p>実績情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 過去の研修実施回数(年度ごと):別紙 ● 過去の研修延べ参加人数(年度ごと):別紙 	
<p>連絡先等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 申し込み・資料請求先:学校法人尚志学園 ● 法人の苦情対応者名・役職・連絡先:全日制課程 学校長 倉又晴男 連絡先:024-951-3500 ● 事業所の苦情対応者名・役職・連絡先:全日制課程副校長 渡辺宗朋 連絡先:024-951-3500 	

学校法人尚志学園 尚志高等学校普通科福祉系【学則】

- (1) 事業者の名称及び所在地：学校法人尚志学園 福島県郡山市大槻町坦の腰2番地
- (2) 研修の名称：介護職員初任者研修
- (3) 研修課程及び形式：介護職員初任者研修課程・通学
- (4) 開講の目的：福祉コースに在籍している生徒の多くは、将来、福祉関係職種への就職を希望している。そのため福祉の基礎を学び、かつ資格取得ができるため。
- (5) 研修期間：令和3年8月31日～令和4年6月30日
- (6) 研修日程及び講師氏名、実施場所 別紙研修日程表のとおり
- (7) 実習施設：①介護老人保健施設コスモス通り
②介護老人保健施設オープンアームズ
③特別養護老人ホームうねめの里
④南東北ロイヤルライフ館
⑤介護老人保健施設ゴールドメディア
⑥介護老人保健施設光の森
⑦介護老人保健施設啓寿園
⑧南東北日和田デイサービスセンター
⑨介護老人保健施設ゴールドメディア 通所リハビリ
⑩デイサービスセンター光の森
⑪うねめの里デイサービス えみふる
⑫コスモス通り通所リハビリテーション
- (8) 使用テキスト：中央法規 介護職員初任者研修課程
- (9) 対象者又は受講資格：普通科福祉コース在籍生徒 ※受講資格特になし
- (10) 受講手続き及び本人確認の方法：受講手続き特になし
本人確認方法（住民票の写し提出）
- (11) 受講費用及び支払い方法：¥8,000円 2学年進級時、小論文テスト代など諸経費共に振込
- (12) 解約条件及び返金の有無：なし
- (13) 研修修了の認定方法：修了試験（学科・実技）の実施
【学科】筆記試験実施（五肢択一・語句選択34問） <認定基準> 60点以上にて合格。
【実技】課題が課せられ、一人ずつ実技試験実施 <認定基準> 手順に沿った介護ができて合格。
【実習】基礎的な生活支援技術の習得を図ったかどうか、施設担当者より評価していただく。
<認定基準> A～Dまでの4段階評価され、B以上を合格とする。
- (14) 欠席、遅刻及び早退の取り扱い：欠席として判断します。やむを得なく欠席した場合は、補講を受けることができます。
- (15) 研修を欠席等した者に対する補講の取り扱い、費用：本校での補講費用は、無料とする。なお他の事業所で受講する補講費用については、各事業所の規定によるものとする。
- (16) 課程編成責任者：福祉科 菊地美穂
- (17) 法人苦情相談窓口：全日制課程 学校長 倉又晴男
- (18) 事業所苦情相談窓口：全日制課程 副校長 渡辺宗朋

実績情報

●過去の研修実施回数及び延べ参加人数●

◇令和3年度

介護職員初任者研修課程 1コース 15名（予定）

◇平成30年度

介護職員初任者研修課程 1コース 31名

◇平成29年度

介護職員初任者研修課程 1コース 20名

◇平成28年度

介護職員初任者研修課程 1コース 39名

◇平成27年度

介護職員初任者研修課程 1コース 24名

◇平成26年度

介護職員初任者研修課程 1コース 33名

◇平成25年度

介護職員初任者研修課程 1コース 34名

◇平成24年度

訪問介護員養成研修2級課程 1コース 27名

◇平成23年度

訪問介護員養成研修2級課程 1コース 25名

◇平成22年度

訪問介護員養成研修2級課程 1コース 30名

◇平成21年度

訪問介護員養成研修2級課程 1コース 24名

◇平成20年度

訪問介護員養成研修2級課程 1コース 30名

◇平成19年度

訪問介護員養成研修2級課程 1コース 30名

◇平成18年度

訪問介護員養成研修2級課程 1コース 29名

◇平成17年度

訪問介護員養成研修2級課程 1コース 36名

◇平成16年度

訪問介護員養成研修2級課程 1コース 30名

◇平成15年度

訪問介護員養成研修2級課程 1コース 27名

介護職員初任者研修 実習施設 【協力実習施設の概要等】

実習施設名	住所	実習担当者	介護保険事業概要	延べ人数	プログラム内容・特色・指導体制等
介護老人保健施設コスモス通り	福島県郡山市鳴神三丁目110番地	齊藤やよえ	介護老人保健施設	4	<p>【実習プログラム内容】</p> <p>オリエンテーション、入浴・食事・排泄介助等サービス提供場面の見学や利用者とのコミュニケーション等の体験、レクリエーション見学。</p> <p>【プログラムの特色】</p> <p>介護老人保健施設及び特別養護老人ホーム、通所リハビリや通所介護等、それぞれの利用者の方の身体状況等を把握できる。また介護職がコミュニケーションや身体介護などと、どのように業務を遂行しているのか観察できる。</p> <p>【指導体制】</p> <p>実習中は有資格者が指導する。実習中は、指導者の指示に従って行動すること。</p>
介護老人保健施設オープンアームズ	福島県須賀川市西川字池ノ上51-102	有馬敏英	介護老人保健施設	4	
特別養護老人ホームうねめの里	福島県郡山市片平町字妙見館1の2	渡辺浩幸	特別養護老人ホーム	4	
南東北ロイヤルライフ館	福島県郡山市日和田町梅沢字丹波山3番地2	本田裕里絵	特別養護老人ホーム	10	
介護老人保健施設光の森	福島県郡山市横川町字遠後50番地1	中山 充	介護老人保健施設	4	
介護老人保健施設ゴールドメディア	福島県郡山市八山田七丁目136	佐久間文彦	介護老人保健施設	2	
南東北日和田デイサービスセンター	福島県郡山市日和田町梅沢字丹波山3番地2	斎藤久美子	通所介護	14	
介護老人保健施設ゴールドメディア通所リハビリ	福島県郡山市八山田七丁目136	飯山雄太	通所リハビリ	1	
デイサービスセンター光の森	福島県郡山市横川町字遠後50番地8	長峯春恵	通所介護	4	
うねめの里デイサービスえみふる	福島県郡山市片平町字妙見館1の2	石田直美	通所介護	4	
コスモス通り通所リハビリテーション	福島県郡山市鳴神三丁目110番地	新藤 猛	通所リハビリ	4	

修了評価の方法

評価基準作成者： 菊地美穂

評価方法及び合格基準

[筆記試験]

- 1 出題範囲
(1) 職務の理解～(9) ところとからだのしくみと生活支援技術までとする。
- 2 出題形式
五肢択一形式、語句選択形式とする。
- 3 出題数 34問
配点 2問：各2点
32問：各3点
- 4 合否判定基準：60点以上にて合格とする。
- 5 不合格になったときの取扱い
不合格者に対しては、再試験を実施する。再試験は3回までとし、最終試験の結果、不合格となった者は未修了扱いとなる。

[実技試験]

- 1 出題範囲
9. ところとからだのしくみと生活支援技術 II 生活支援技術の学習(5)～(12)
- 2 出題形式 課題を与え、実技試験を行う。
- 3 合否判定基準 C以上を合格とする。
(A) 利用者の状態に気を配り、安全安楽に手順に沿った介護ができる。
(B) 安全安楽に手順に沿った介護ができる。
(C) 手順に沿った介護ができる。
(D) 手順に沿った介護ができない。
- 4 不合格になったときの取り扱い
(D) 判定の者は、必要に応じて補講を行い、基準に達するまで再評価を行う。

[実習]

- 1 評価方法 実習目標に沿っているか、実習指導者が評価する。
- 2 合否判定基準 B以上を合格とする。
(A) 理解している。
(B) 概ね理解している。
(C) 一部理解が不足している。
(D) 理解が不足している。
- 3 不合格になったときの取り扱い
(C)(D) 判定の者は、必要に応じて補講を行い、基準に達するまで再評価を行う。

様式9-2(介護職員初任者研修・生活援助従事者研修 共通)

講師基準一覧

講師氏名	資格名	現職	略歴
高橋真貴子	中学校教諭1種普通免許 高等学校教諭2種普通免許 社会福祉主事	デイサービスうさぎ庵:生活相談員(9年) 尚志高等学校講師(11年) ポラリス保健看護学院(10年)	県聾学校講師(4年) 東都学園教諭(10年) 社会福祉施設むつき会生活相談員(4年)
大森洋亮	精神保健福祉士 介護支援専門員	看護学校講師(27年) 企業カウンセラー(28年) 針生ヶ丘病院居宅介護支援事業所(42年)	看護学校講師 企業カウンセラー 針生ヶ丘病院居宅介護支援事業所
若林由起子	作業療法士	総合南東北病院リハビリテーションセンター (28年)	医療機関作業療法(6年)
中野目あゆみ	看護師 ユマニチュートインストラクター	郡山市医療介護病院看護副部長職	総合病院循環器科(7年) 医療介護病院看護業務(慢性期・療養)(H18～現在)
村澤顕一	介護福祉士	介護主任	介護職員(H20～現在)
橋本栄作 武藤龍生 大竹悠也	介護福祉士	介護老人保健施設介護職(18年4ヵ月)橋本氏 介護老人保健施設介護職(13年3ヵ月)武藤氏 介護老人保健施設介護職(14年4ヵ月)大竹氏	
工藤彩香	看護師	医療法人慈繁会土屋病院:教育委員・スタッフ 指導担当者	総合病院整形外科・臨地実習指導者(6年) 総合病院救急救命センター主任(3年) 総合病院消化器外科病棟主任(2年) 看護学校専任教員(4年)※H28のみ地域包括支援病棟主任兼務)
五十嵐恵久	介護福祉士	特別養護老人ホームひかりの里主任介護支援専門員 (27年4月～)	特別養護老人ホーム介護員(6年6ヶ月) 専門学校講師(7年) 社会福祉施設生活相談員(3年3ヶ月) ショートスティひかり主任生活相談員・介護支援専門員(6年8ヶ月) 小規模多機能型居宅介護・認知症対応型共同生活介護清流の里みらい管理者(1年5ヶ月) 特別養護老人ホームひかりの里主任介護支援専門員(27年4月～)
植田宗晃	福祉用具専門相談員	福祉用具貸与及び販売、住宅改修(26年)	
根本健太	介護福祉士	小規模多機能型居宅介護(10年)	
菊地美穂	高等学校教員免許状一種普通(家庭) 高等学校教員免許状一種普通(福祉) 中学校教員免許状一種普通(家庭) 中学校教員免許状二種普通(保健) 介護福祉士 訪問介護員2級	学校法人尚志学園尚志高等学校勤務	高校教諭(25年)

シラバス

事業者名:学校法人尚志学園 尚志高等学校

科目名	1. 職務の理解		
指導目標	①介護職員初任者研修受講にあたり、介護職のキャリアパスの概略を学ぶ。②介護職がどのような環境で、どのように仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。		
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数
			講義内容・演習の実施方法等
(1)多様なサービスの理解	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度の導入と経緯、意義の理解。 ・介護保険サービス(居宅・施設)、介護保険外サービスの理解。 ・介護保険サービス利用の手続きの理解。
(2)介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容。 ・居宅、施設の実際のサービス提供現場をイメージする。(DVDを用いて理解の促進を図る。) ・ケアプランなどサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れの理解。 ・他職種との連携、チームアプローチ、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携の理解
合計時間数	6	6	

シラバス

事業者名:学校法人尚志学園 尚志高等学校

科目名	2. 介護における尊厳の保持・自立支援			
指導目標	①介護職が自立支援による高齢者の尊厳ある暮らしを支える専門職であることを自覚する。 ②自立支援・介護予防というサービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動等を理解する。			
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等
(1)人権と尊厳を支える介護	4.5	4.5		<ul style="list-style-type: none"> ・人権尊厳のための取組 ・QOL、ノーマライゼーションの考え方の理解 ・エンパワメントの視点と理解 ・個人の権利を守る制度の概要の理解 ・虐待を受けている高齢者への対処方法についての指導を行い、高齢者虐待に対する理解を促す。 ・利用者の尊厳を著しく傷つける言動とその理由について考えさせ、尊厳という概念を理解する。
(2)自立に向けた介護	4.5	4.5		<ul style="list-style-type: none"> ・事例を通して、利用者の残存能力を効果的に活用する方法、自立支援や重度化防止への理解を深める。 ・個別性、個別ケアを理解させる。
合計時間数	9	9		

シラバス

事業者名:学校法人尚志学園 尚志高等学校

科目名	3. 介護の基本			
指導目標	① 介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性気づき、職務におけるリスクとその対応策を理解する。 ② 介護を必要としている人(要介護者)の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉えることができる。			
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等
(1)介護職の役割、専門性と多職種との連携	1.5	1.5		・介護環境の特徴の理解(訪問介護と施設介護の違い、地域包括ケアの方向性) ・介護の専門性への理解(重度化防止、遅延化の視点、利用者主体の支援姿勢、自立した生活を支えるための介護)
(2)介護職の職業倫理	1.5	1.5		・専門職の倫理と意義の理解 ・介護職としての社会的責任の理解 ・プライバシーの保護、尊重 ・事例検討によるグループワーク
(3)介護における安全の確保とリスクマネジメント	1.5	1.5		・事故に結びつく要因を探り、対応していく技術の理解 ・リスクマネジメントの分析手法と視点の理解 ・事故に至った経緯の家族・市町村へ報告の理解 ・事故予防・安全対策の情報共有の方法の理解 ・感染症対策(感染源の排除、感染経路の遮断、感染に対する正しい理解)
(4)介護職の安全	1.5	1.5		・介護職の心身の健康管理 ・ストレスマネジメント ・腰痛予防、感染予防 ・手洗いの手順
合計時間数	6	6		

シラバス

事業者名:学校法人尚志学園 尚志高等学校

科目名	4. 介護・福祉サービスの理解と医療との連携			
指導目標	① 介護保険制度や障がい者総合支援の目的を理解する。 ② 介護サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務を理解する。			
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等
(1)介護保険制度	3	3		・介護保険制度創設の背景及び目的、動向の理解 ・介護保険制度の仕組みと基本的理解 ・介護(予防)給付と種類の理解 ・要介護認定の手順の理解 ・制度を支える財源、組織、団体の機能と役割の理解 ・指定介護サービス事業者の指定
(2)医療との連携とリハビリテーション	3	3		・医療行為と介護の理解 ・訪問看護サービス概要の理解 ・施設における看護と介護の役割・連携の理解 ・リハビリテーションの理念の理解
(3)障がい者自立支援制度及びその他の制度	3	3		・障がい者福祉制度の理念理解(障がいの理念、ICFの手法) ・障がい者総合支援制度の仕組みの基礎的理解 ・個人の権利を守る制度の概要(個人情報保護法、成年後見制度、日常生活自立支援事業)
合計時間数	9	9		

シラバス

事業者名:学校法人尚志学園 尚志高等学校

科目名	5. 介護におけるコミュニケーション技術			
指導目標	① 利用者のコミュニケーション能力の違いを認識し、対応することで信頼関係築く。 ② チームケアにおける専門職間でのコミュニケーション有効性、重要を理解する。 ③ 記録の機能と重要性を理解する。			
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等
(1)介護におけるコミュニケーション	3	3		・介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 ・言語的・非言語的コミュニケーションの特徴の理解 ・利用者、家族とのコミュニケーションの実際(利用者のそれぞれの思いを理解する) ・利用者の状況(視力・聴力の障がい、失語症、構音障がい、認知症)に応じたコミュニケーション技術の理解
(2)介護におけるチームのコミュニケーション	3	3		・介護における記録の意義、目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録 ・介護に関する記録の種類 ・個別援助計画書 ・ヒヤリハット報告書、5W1H ・ケアカンファレンスの重要性 ・コミュニケーションを促す環境
合計時間数	6	6		

シラバス

事業者名：学校法人尚志学園 尚志高等学校

科目名	6. 老化の理解			
指導目標	① 利用者の加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解する。 ② 高齢者に多い疾病の種類と症状等についての理解を促す。			
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等
(1) 老化に伴うことと体の変化と日常	3	3		・ 老年期の発達と老化に伴う心身の変化と特徴の理解、防衛反応(反射)の変化、喪失体験 ・ 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響の理解(咀嚼機能の低下、筋・骨・関節の変化、体温維持機能の変化、精神的機能の変化と日常生活への影響)
(2) 高齢者と健康	3	3		・ 高齢者の疾病と生活上留意点(骨折、筋力低下と動作・姿勢の変化、関節痛) ・ 高齢者に多い病気とその日常生活上留意点(循環器障がいの特徴と危険因子、対策、老年期うつ症状、誤嚥性肺炎、小さな変化に気づく視点、感染症にかかりやすい高齢者)
合計時間数	6	6		

シラバス

事業者名:学校法人尚志学園 尚志高等学校

科目名	7. 認知症の理解			
指導目標	① 認知症の利用者の心理・行動への理解 ② 事例検討により、認知症における介護の原則について理解する。			
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等
(1) 認知症を取り巻く状況	1.5	1.5		・ 認知症ケアの理念の理解 ・ パーソンセンタードケアの理解 ・ 認知症ケアの視点の理解(残存能力に着目したケア)
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	1.5	1.5		・ 認知症の概念の理解 ・ 認知症の原因疾患とその病態 ・ 原因疾患別ケアのポイント ・ 健康管理
(3) 認知症に伴うこととからだの変化と日常生活	1.5	1.5		・ 認知症の生活障がいの理解 ・ 心理・行動の特徴の理解 ・ 中核症状、BPSD、不適切なケア、生活環境で認知症を改善する
(4) 家族への支援	1.5	1.5		・ 認知症の受容過程での援助 ・ 介護負担の軽減(レスパイトケア)
合計時間数	6	6		

シラバス

事業者名:学校法人尚志学園 尚志高等学校

科目名	8. 障がいの理解			
指導目標	①介護における障がいの理念とICFの理解 ②それぞれの障がいの特性と介護上の留意点に対する理解			
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等
(1)障がいの基礎的理解	0.75	0.75		・障がいの概念とICFの分類、医学的分類 ・障がい福祉の基本理念 ・ノーマライゼーションの概念
(2)障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、関わり支援等の基礎的知識	0.75	0.75		・障がい者の理解(身体障がい、知的障がい、精神障がい)
(3)家族の心理、関わり支援の理解	1.5	1.5		・障がいの理解、障がいの受容支援の方法の理解 ・介護負担の軽減を支援する方法
合計時間数	3	3		

シラバス

事業者名：学校法人尚志学園 尚志高等学校

科目名	9. こころとからだのしくみと生活支援技術			Ⅰ 基本知識の学習
指導目標	① 介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスが提供できる。 ② 基本的な一部、又は全介助等の介護が実践できる。 ③ 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。			
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等
(1)介護の基本的な考え方	3	3		・理論に基づく介護 (ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除) ・法的根拠に基づく介護
(2)介護に関するこころのしくみの基礎的理解	4.5	4.5		・学習と記憶の基礎知識 ・感情と意欲の基礎知識 ・自己概念と生きがいの理解 ・老化や障がいを受け入れる適応行動とその阻害要因の理解 ・こころの持ち方が行動に与える影響の理解 ・からだの状態がこころに与える影響の理解
(3)介護に関するからだのしくみの基礎的理解	3	3		・人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 ・骨、関節、筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用 ・中枢神経系と体性神経に関する基礎知識 ・自律神経と内部器官に関する基礎知識 ・こころとからだを一体的に捉える ・利用者の様子と普段との違いに気づく視点
合計時間数	10.5	10.5		

シラバス

事業者名：学校法人尚志学園 尚志高等学校

科目名	9. こころとからだのしくみと生活支援技術		II 生活支援技術の学習	
指導目標	<p>① 介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスが提供できる。</p> <p>② 基礎的な一部介助又は全介助等の介護の実践ができる。</p> <p>③ 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。</p>			
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等
(4)生活と家事	2.75	2.75		<p>[講義内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家事と生活の理解 ・家事援助に関する基礎的知識と生活支援の理解
(5)快適な居住環境整備と介護	4.5	4.5		<p>[講義内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・快適な居住環境に関する基礎知識 ・高齢者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法の理解 <p>[演習実施方法]福祉用具の使い方、活用方法</p>
(6)整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	4.5	4.5		<p>[講義内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体状況に合わせた衣服の選択、着脱 ・身支度、整容行動、洗面の意義・効果について <p>[演習実施方法]</p> <p>顔の拭き方、衣服の着脱、口腔ケア</p>
(7)移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	4.5	4.5		<p>[講義内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動、移乗に関する基礎知識とその用具の利用方法(ベット・車いす・歩行器・杖・ポータブルトイレ) ・利用者、介助者双方が安全で安楽な方法の理解 ・利用者の残存能力の活用と自立支援の理解 ・褥創予防の方法 <p>[演習実施方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体位変換の介助、車いす介助、歩行介助、 ・ベットから車いすへの移乗
(8)食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	4.5	4.5		<p>[講義内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事に関する基礎知識の理解(食事をする意味、咀嚼・嚥下のメカニズム、低栄養の弊害) ・食事環境の整備(時間、場所等)、食事に関連した用具、食器の活用方法。(高齢者の食事、調理法、疾患と食事、誤嚥の留意点) <p>[演習事例方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事介助の方法(片麻痺、視覚障がい) ・ミキサー食等の実食
(9)入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	4.5	4.5		<p>[講義内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入浴、清潔保持に関連した基礎知識(羞恥心や遠慮への配慮、体調の確認) ・様々な入浴用具と整容用具の活用方法 ・楽しい入浴を阻害するこころとからだの要因の理解と支援 <p>[演習事例方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清拭の方法、陰部洗浄 ・ケリーパットを利用した洗髪介助、足浴介助
(10)排泄に関連したこころと	4.5	4.5		[講義内容]

からだのしくみと自立に向けた介護			<ul style="list-style-type: none"> ・排泄に関する基礎知識(排泄のメカニズム) ・様々な排泄環境整備と排泄用具の活用方法 ・爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法(プライド、羞恥心、プライバシーの確保、おむつは最後の) <p>[演習事例方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポータブルトイレでの介助、片麻痺のトイレ介助、尿器を利用した排泄介助 ・おむつ交換の方法
(11)睡眠に関するところとからだのしくみと自立に向けた介護	4.5	4.5	<p>[講義内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・睡眠に関する基礎知識 ・様々な睡眠環境と用具の活用方法 ・快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 ・安楽な姿勢、褥創予防 <p>[演習事例方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベットメイキング、シーツ交換、シーツのたたみ方 ・「不眠」という課題を抱えた利用者への支援方法についてグループ討議を行う。
(12)死にゆく人に関連したところとからだののしくみと終末期介護	3.75	3.75	<p>[講義内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ ・「生」から「死」への過程の理解 ・「死」に向き合う心の理解、苦痛の少ない死への支援 <p>[演習事例方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ:ロールプレイングによる「介護職員の役割の理解」
(13)施設実習 【介護実習】	8	8	
(14)施設実習 【デイサービス実習】	8	8	
合計時間数	38	38	

シラバス

事業者名：学校法人尚志学園 尚志高等学校

科目名	9. こころとからだのしくみと生活支援技術		Ⅲ生活支援技術演習
指導目標	①生活の各場面での介護については、ある状態の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術を習得する。②利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得を目指す。		
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数
(13)介護過程の基礎的理解	5.25	5.25	
			講義内容・演習の実施方法等 [講義内容] ・情報収集(利用者の状態像の把握)ニーズ、生活課題の把握、介護の方向性の明確化。 ・介護計画の立案(生活目標の設定、支援内容・方法の決定) ・実践(計画に基づく実践、尊厳の保持・自立支援) ・評価(目標の達成度の把握、支援内容・方法、今後の方針等の検討) ・目標の達成
(14)総合生活支援技術演習	5.25	5.25	
			[演習実施方法] ・事例検討 ①こころとからだの力が発揮できない要因の分析 ②適切な支援技術の検討 ③支援技術演習 ④支援技術の課題 ※事例は高齢分野(要支援2程度、認知症、片麻痺座位保持不可)から2事例を選択し、1事例1.5時間程度で実施す
合計時間数	10.5	10.5	

シラバス

事業者名:学校法人尚志学園 尚志高等学校

科目名	10. 振り返り			
指導目標	① 研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきことを演習等で生徒自身に言語化させたうえで、利用者の生活を支援する根拠に基づく介護の要点について再確認を促す。② “サービス利用者の生活の拠点に共に居る”という意識を持って、その状態における模擬演習(身だしなみ、言葉遣い、応対の態度等の礼節を含む)を行い、業務における基本的態度の視点を持って介護を行えるよう理解を促す。			
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等
(1)振り返り	2	2		[講義内容] ・研修を通して学んだこと ・今後継続して学ぶこと ・根拠に基づく介護についての要点(利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等)
(2)就業への備えと研修修了後における継続的な研修	2	2		[講義内容] ・介護現場で学び続けるべき知識及び技術とその必要性 ・介護職の職務内容及びその課題と解決方法について(ディスカッション)
合計時間数	4	4		